

2016 年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本小児アレルギー学会

正式名称

小児アレルギー スキルアップコース

医学教育事業の概要

若手小児科医対象の教育セミナーとビデオ教材作成によりセミナーに参加できない小児科医への情報発信
アレルギー概論、喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーのテーマで実施

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師

対象となる医療関係者の想定人数：セミナー 300 人、ビデオ 2,000 人

医学教育事業の必要性

アレルギー疾患の発症率は増加傾向にあり、現在約 1/3 の子どもたちが何らかのアレルギー疾患を有している。アレルギー疾患は、園・学校の欠席や時間外受診など、患児とともにその保護者にとっても日常生活の大きな負担になっている。そこで、平成 27 年からアレルギー疾患対策基本法が施行されたが、小児のアレルギー診療を担うべき日本アレルギー学会専門医（小児科）の数は十分ではなく、また専門医の地域偏在も大きな問題となっている。このような状況を改善するためには、より多くのアレルギー専門医を育成すると共に、一般小児科医におけるアレルギー診療のレベルを向上させることが求められている。

医学教育事業の目的

わが国における小児のアレルギー診療レベルの均てん化を目指して、若手小児科医に対して小児アレルギー診療を行う上で基礎となる知識と手技をマスターしてもらうことを目的とする。知識に関しては、講義を通して、アレルギー疾患に関するガイドラインを参考に基本病態や実際の管理方法について理解することを目標とする。一方、手技に関しては、ハンズオンセミナーを通して、基本的な手技（喘息：スパイロメトリー・呼気一酸化窒素測定や吸入指導、アトピー性皮膚炎：スキンケアの指導、食物アレルギー：経口食物負荷試験の実施方法と症状誘発時の対応、栄養指導）をマスターすることを目標とする。

医学教育事業の計画・方法等

本事業は、年に 1 回開催する「小児アレルギー教育セミナー（仮称）」と、ビデオ教材を作成してセミナーに参加できない小児科医への情報発信よりなる。

<小児アレルギー教育セミナー（仮称）>

小児アレルギーに関心のある若手小児科医を対象（80-100 名/回）に、年 1 回計 3 回、毎年異なる地域で開催する。アレルギー概論、喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーの 4 コースからなり、それぞれのコースでミニレクチャー（クリッカーを用いて Q&A 形式の双方向性レクチャー）と小グループに分かれてのハンズオンセミナーを行い、4 コースを全て受講する。セミナー終了直後と半年後に調査を行い、習得度合いやセミナー参加後に実際の臨床においてどの程度活用されているかについての調査も行う予定である。

<ビデオ教材による小児アレルギー診療の普及>

上記のレクチャーやハンズオンセミナーの手技を、日本小児アレルギー学会のホームページより閲覧できるようにする。視聴後には質問に答えてもらうなどして、習得度合いの評価も行う予定である。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

事業の成果は、日本小児アレルギー学会ばかりでなく、日本アレルギー学会や日本小児科学会などの学術大会で発表すると共に日本小児アレルギー学会雑誌に掲載する。